

株式会社 星野電業社

DX宣言書

2026年7月31日
株式会社 星野電業社
代表取締役社長 星野 泰助

□ 経営理念

燕のために

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 情報のデジタル化と業務の標準化を進め、生産性の向上と働きやすさを両立しながら、持続的に成長できる企業を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年10月)

戦略 「業務標準化と情報基盤の整備」

- 施策
- ・ 原価管理の精度向上に向けて、日報や資材管理の連携を踏まえた業務プロセスを整理し、原価管理の運用基盤を整備
 - ・ 業務のデジタル化を円滑に進めるため、デジタル化対象書類を整理するとともに、運用ルールを策定
 - ・ 在庫管理を効率化するため、部材名称・マスタデータを統一し、管理項目を標準化
 - ・ 業務の属人化を解消するため、業務手順やノウハウを文書化

➤ フェーズ2(2027年11月 ～ 2028年10月)

戦略 「情報一元管理の推進」

- 施策
- ・ 情報の一元化に向けて、整理した業務プロセスや管理項目を基に原価管理システムを改善し、日報・出入庫記録・勤怠等をデジタル化
 - ・ 円滑な運用定着に向けて、全従業員を対象としたデジタルツール活用研修を実施
 - ・ 案件の検索性と可視性を高めるため、システム導入にあわせて工事番号を付与する仕組みを整備
 - ・ 在庫管理を効率化するため、原価管理と連携した在庫管理の仕組みを整備
 - ・ 伝票情報の入力を効率化するため、取引先とのデータ連携方法を整備

➤ フェーズ3(2028年11月 ～ 2029年10月)

戦略 「AI活用による積算・設計業務の効率化」

- 施策
- ・ 積算・設計業務の効率化を実現するため、図面解析や見積数量の自動算出が可能なAI技術を調査・検証
 - ・ AIを活用した積算・設計業務を安全に運用するため、図面データや設計情報の適切な管理ルールと情報セキュリティ対策を整備

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 日報電子化 : 完了(～2027年10月)
- ・ 紙の使用量削減率 : 2025年度比 70%以上削減(～2029年10月)